

# 令和7年度事業報告

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社

## 目次

1	公社の現状	1
2	令和7年度の振り返り	1
(1)	法人運営	1
(2)	事業運営	2
ア	地域共生社会の実現、孤独・孤立防止	2
イ	ケアラー（介護者）支援	3
ウ	認知症支援	3
エ	フレイル・介護予防支援	3
3	実施事業	4
(1)	住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充	4
ア	有償在宅福祉サービス事業	4
イ	生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」	8
ウ	在宅福祉サービスに関する相談事業	9
(2)	支え合い、孤立しない地域づくりのための普及啓発事業・人材育成事業	10
ア	普及啓発事業	10
イ	人材育成事業	12
(3)	認知症施策の推進－誰もが安心して暮らせる地域づくり－	13
ア	認知症サポーター事業	13
イ	だれでもカフェ（認知症カフェ）	14
(4)	ケアラーを支えるための支援の拡充	15
ア	ケアラー、ヤングケアラーのための個別相談支援	15
イ	ケアラー（介護者）が孤立しない地域づくりのための普及啓発・人材育成	15
(5)	高齢者の介護・医療・福祉をサポートする総合相談と支援体制づくり	18
ア	調布市地域包括支援センターゆうあい事業	18
(6)	認知症ケアの充実とフレイル予防	23
ア	調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業	23
イ	調布市入間町地域密着型認知症デイサービスぷちぽあん事業	24
(7)	多様なニーズに対する専門性の確保と利用者に寄り添ったケアの推進	25
ア	訪問介護事業	25
(8)	地域、医療介護の連携を通じた生活支援、ケアマネジメントの充実	27
ア	居宅介護支援事業	27
(9)	健全な公社運営	28
ア	法人運営及び組織体制の強化・充実	28
イ	自主的、自立的経営に向けた財政基盤の強化	30
ウ	調査研究開発事業	31
4	その他の報告事項	31
(1)	役員等及び会議に関する事項	31
ア	役員等名簿	31
イ	会議の開催	32
(2)	公社外部委員会等一覧及び実習生受入実績	33
ア	公社外部委員会等一覧表	33
イ	実習生受入実績	34
(3)	職員研修の実績	34
ア	研修実績	34
イ	社内研修	34
(4)	事業報告書附属明細書について	34

## 1 公社の現状

我が国では長期にわたり、人口の減少と少子高齢化が大きな課題となっており、それに付随して医療・介護需要の増大や、それを担う福祉人材の不足が深刻な社会問題となっています。

近年は、そのような社会情勢を背景に、「地域における支え合い」の活動が見直され、改めてその重要性にも注目が集まっています。そうした期待は、利用者等から公社に寄せられる声からも実感するところで、公社の使命は、その期待に応えることです。

それを踏まえ、第3次中期計画の2年目に該当した令和7年度を終えての公社の現状を総括しますと、各事業においては概ね目標値を上回り、全体として順調に推移しました。

特に、公社の基幹でもある住民参加型事業では、利用会員・協力会員ともに着実にその数を増やし、地域における支え合いの仕組みの広がりが実感できたところです。なお、協力会員については20代を中心に、30代を含む比較的若い世代にも広がりつつあり、担い手の新たな裾野が広がったことで、今後の事業継続に明るい兆しも見え始めております。

自主事業では、居宅介護支援事業・訪問介護事業ともに人材の確保に取り組み、事業運営の安定化が図られたことで収支も一段と改善し、経営基盤の強化に繋がりました。

一方で、近年の急激な物価や人件費の上昇は、公社の事業運営に大きく影響し、令和8年度より住民参加型事業では、サービス利用料金並びに協力会員報酬の改定を行います。改定にあたっては、利用者や関係者等に丁寧な説明に努め、準備を進めましたが、改定後においても引き続き皆さまから寄せられる声や要望等には注視し対応していきます。

また、人材の確保も大きな課題です。公社に限らず、福祉人材については慢性的な人手不足が続いており、国はその枠を外国人にまで広げている状況です。そうした中で、選ばれる団体・組織となるための「魅力」や、それを広く「発信」する方策については、今後も模索と工夫が必要です。

## 2 令和7年度の振り返り

### (1) 法人運営

一義的には令和7年度は、令和6年度に実施した事業再編を受け、該当する事業の安定化とサービスの質の向上を目指した年度でしたが、計画していた会議や研修、また、各種事業の目標値については、概ね達成できました。

住民参加型事業では、利用会員・協力会員ともに増加し、利用会員は年間を通じて300世帯を超える水準で推移しました。協力会員は近年増加傾向で、令和7年度もその流れを継続させることができました。

特に、新たな募集方法として広報チラシのポスティングを年2回実施し、その効果が見られました。登録説明会への参加者が大きく増え、地域の潜在的な担い手の存在を、改めて強く認識する契機となりました。

若年層の参加を促す取組では、調布市と相互友好協力協定を締結する大学への働きかけを継続したことで、学生等の参加が増えました。公社としては、若者が協力会員活動（食事サービス・ホームヘルプサービス）を通じて、地域社会の実情に触れるとともに、公社が掲げる助け合いやお互い様の考え方を実体験できるよう努めています。

食事サービス事業では、高い需要が継続し、利用希望者が常時30～40人程度待機す

る状況が続いています。しかし、調理・配達を担う協力会員の確保が困難で、提供する体制の強化は難しい状況が続いています。さらに、現に活動しておられる方々の高齢化も進んでいることから、将来にわたる本事業の維持継続を考え、その一助として令和8年度から利用料金並びに協力会員報酬の見直しを決め、令和7年度は利用会員・協力会員等への説明や周知を図りました。

自主事業では、居宅介護支援事業並びに訪問介護事業ともに、安定的に推移しました。居宅介護支援事業では、職員の補充や主任ケアマネジャーの確保が進み、体制の強化が図れました。訪問介護事業でも、サービス提供責任者の正規職員化（職務限定正社員）を進め、体制強化を図りました。その結果、両事業を含む自主事業全体の収支も大変に良好な決算となりました。

デイサービス事業では、令和6年度の事業再編後の運営体制の定着を図るとともに、利用者確保や実施するプログラムの充実に取り組みました。併せて、専門職（作業療法士）の確保など体制面の強化も進めましたが、年度を通じた稼働率については目標値の達成に至らず、引き続き改善が必要な状況です。今後も、「選ばれるデイ」「通いたくなるデイサービス」を意識した取組を、組織全体で検討します。

地域包括支援センター事業では、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防など、多岐にわたる役割を担っていますが、近年、相談内容の複雑化・複合化が進むとともに、処理すべき介護予防プラン件数が増加して、職員の業務負担も増大しています。併せて、令和7年度は職員の欠員も発生し、体制面での課題も顕在化しました。新規採用や人事異動等で、随時、補填はしましたが、人員配置の課題については、業務の委託元である調布市の高齢部門と共有をしています。

認知症支援では、公社が主体となり若年性認知症当事者の会を開催したことで、新たな支援の可能性が広がりました。

ケアラー支援では、複合的な課題を抱えた家庭への対応や、18歳を超えたヤングケアラーへの支援など、新たな課題も浮き彫りになりました。

福祉講演会では、孤独・孤立防止をテーマに取り上げましたが、想定以上に反響が大きかったことから、つながりサポーター養成講座を企画・開催し、新たな地域課題への取り組みとしました。

法人運営の基盤である人材確保については、特に年度の前半期は大変に厳しい状況が続きました。募集要件等の見直しや、採用手法の多様化を図り、後半期には一定の成果も出ましたが、充足していない部署もあり、引き続きの課題です。

施設管理については、経年劣化に伴う設備の不具合が見られるなど、施設・設備の維持管理に課題がある状況です。幸い、利用者や協力会員等に影響はありませんでしたが、今後も調布市の高齢部門と情報共有を図りながら、適切に対応していきます。

また、近年の公益法人制度の見直しでは法人運営の透明性の確保やガバナンスの強化が、これまで以上に求められていることから、令和7年度も外部講師を招き、常勤理事を含む職員を対象としたハラスメント防止研修を実施するなど、法人全体としてコンプライアンス意識の向上と健全な職場環境の確保に向けた取組を進めました。

## （2）事業運営

### ア 地域共生社会の実現、孤独・孤立防止

福祉講演会では「孤独・孤立防止」をテーマに、日本女子大学人間社会学部教授の黒

岩亮子氏を招き、「つながり」を育むことの重要性について講演していただきました。

事前予約が早期に満席となるなど市民の関心は高く、本テーマへの理解促進を図ることができました。参加者からも好意的な感想が多く寄せられたことから、内閣府が推進する「つながりサポーター養成講座」新たに企画し、年度末に実施しました。これを契機に今後も、本テーマについては取組の継続を検討する予定です。

住民参加型事業では、20代を中心に若年層の協力会員が増加しています。活動への参加により、場の活性化が図られ、既存の協力会員や利用者からも歓迎の声が寄せられています。公社としても、若者が協力会員活動を通じて、食事の配達や見守り、生活支援などの実践を担いながら、地域社会における助け合いやお互い様の考え方を体感している様子が見られ、その意義を改めて実感しています。そうした状況も踏まえ、令和8年度から協力会員の対象年齢を18歳から16歳に引き下げます。地域共生社会の実現に向け、支え合いの輪がより広い年齢層に広がればと考えています。

#### イ ケアラー（介護者）支援

ケアラーサポーター養成講座では、新たに18人の参加があり、ケアラーに寄り添う地域の担い手の裾野の広がりが見られ、その役割が期待されます。ケアラー相談も令和6年度と同様に実施し、複合的な課題を抱えるケアラー等の相談対応を行いました。

一方で、ケアラー支援に対する社会的認知は高まりつつあるものの、相談件数は横ばいであり、支援につながらないまま潜在化し、孤立するおそれのある状況も見られます。

ヤングケアラー・コーディネーター事業では、一部で支援の対象者が18歳を超えるケースも散見し始め、支援ニーズの広がりも予測される状況です。引き続き関係機関等との密な連携が重要です。

デイサービス事業では、家族会の開催を通して、ケアラーとしてのご家族の悩みや思いを共有する機会を設け、孤立防止に努めています。令和7年度も、国領デイ・ぶちぼあんそれぞれで家族会を開催し、皆さまの様々な思いを共有する場となりました。

#### ウ 認知症支援

令和7年度は、新たな認知症支援の取組として、若年性認知症当事者の会を開催しました。当日は、公社の手づくりのお弁当を提供しランチ会を開催したほか、参加者のアイデアでクリスマス会を行うなど、当事者や家族がくつろげる居場所づくりを意識して実施しました。当事者同士の語らいの機会を確保しつつ、支援者やボランティアも加わることで交流の促進が図られました。参加者の話からは、ヤングケアラーに該当していたと推測される方の課題も浮かび上がり、若年性認知症を新たな視点で捉える契機となりました。参加者からは、定期開催の希望もあり、本取組の意義と手応えを実感したことから、年度末の3月に3回目を開催し、今後も継続していく予定です。

認知症サポーターの養成では、複数の「調布市版チームオレンジ」の立ち上げを目指し、認知症サポーターステップアップ講座の開催や活動団体への支援を行いました。その結果、令和7年度は新たに2か所がチームオレンジとして活動を開始しました。

#### エ フレイル・介護予防支援

令和7年度は、作業療法士（OT）を確保し国領デイに配置したことで、総合事業通所型サービス（市基準）のプログラム更新を行いました。専門的な見地からフレイル・

介護予防に関する助言が得られる点について、利用者からも評価をいただいています。今後も利用者の状態を踏まえ、効果的なプログラムの提供に努めます。

一方、市基準サービスの稼働率は年間を通じて目標に達しませんでした。地域包括支援センター等への広報や営業活動を継続し、関係機関との連携強化を図りましたが、天候や利用者の体調変化等により安定した利用につなげることが難しい状況です。一部の男性利用者からの筋力トレーニング機器設置の要望も踏まえ、今後の改善策として検討を進めます。

また、公社の地域包括支援センターでは、地域の方々にフレイル・介護予防の普及啓発に努め、地域住民や関係機関と連携しながら、地域全体で高齢者を支える体制づくりに尽力しました。

### 3 実施事業

#### (1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充

##### ア 有償在宅福祉サービス事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	利用会員数（世帯）	310 世帯	308 世帯
◎	協力会員数	260 人	294 人
—	協力会員説明会（定期・随時）	35 回	57 回
評価等	<p>○利用会員数は僅かに目標値に及びませんでした。年度途中では目標値を超えて推移することもありました。協力会員数・協力会員説明会については目標値を超えました。</p> <p>○若年層の協力会員の登録の増加傾向が見られ、参加される方の年代は幅広くなってきています。</p> <p>○市内全域に7月、2月に配付した広報チラシの効果でその後の協力会員説明会も盛況で、別日に説明会を複数回設け、対応しました。</p> <p>○一人でも多くの方に協力会員活動への関心を高めていただくことを目的として、地域において説明会を開催しました。あわせて、西部地区では4つの自治会の協力を得て、回覧板による広報チラシの周知を行いました。</p>		

##### (ア) 利用会員の状況

3月末の時点で世帯数は308世帯となり、目標達成には及びませんでした。入退会はありますが、ホームヘルプサービス、食事サービスともに増加しました。特に食事サービスでは、ほぼ全ての枠で常時、待機者がいる状況で、その解消が課題となっています。

(単位：世帯)

区分		令和7年度	入会・退会	増減	令和6年度
高齢者		279(90.6%)	(入会) 159 (退会) 164 (移動) 0	△5	284(92.5%)
障害者		16(5.2%)	(入会) 8 (退会) 4 (移動) 0	4	12(3.9%)
病弱者		12(3.9%)	(入会) 7 (退会) 5	2	10(3.3%)
ひとり親家庭等		1(0.3%)	(入会) 0 (退会) 0	0	1(0.3%)
合計	年度末世帯数 (3月末)	308(100%)	—	1	307(100%)
	会員数	387人	—	8	379人

## (イ) 協力会員の状況

協力会員の登録人数は294人で、目標を達成しています。

年2回にわたる広報チラシの配布、市内・隣接市の大学への広報の強化、個別の協力会員説明会の実施回数を増やした結果、大学生や現役世代の登録が増加しました。新しい年齢層の協力会員の増加に伴い、単発や短期間・不定期の活動を希望する協力会員が増えてきています。引き続き、公社の理念に共鳴し、地域の福祉人材として活躍が期待できる協力会員の確保に努めます。

(令和7年度実績)

区分	協力会員	月平均
入会者	92人	7.7人
退会者	53人	4.4人
令和8年3月末登録者数 (令和7年3月末)	294人 (255人)	-
月末登録者累計人数	3,232人	269.3人
活動者実数(各月合計)	1,873人	156.1人
ホームヘルプサービス	1,015人	84.6人
食事サービス	993人	82.8人
活動率(令和6年度活動率)	58.0%(61.2%)	

※活動者実数は複数の活動に参加する会員もいるため内訳の合計とは一致しない。

※活動率(%) = 活動者実数 ÷ 月末登録者累計人数

(ウ) ホームヘルプサービス

令和7年度の利用者数は1,916世帯と前年度より増加し、利用回数も安定して推移しました。利用時間では、高齢者世帯の利用が引き続き全体の中心を占め、特に単身高齢者の利用が多く、地域の見守り機能として重要な役割を果たしています。夫婦世帯・同居世帯も前年度と比較して大きく増減はなく、継続的な支援を行いました。

総利用時間は6,557時間で前年度よりやや減少したものの、月平均では安定しており、地域の多様な世帯に対して継続的な支援を確保できた一年となりました。

(対象者別利用時間数及び回数)

区分		令和7年度		令和6年度	
		合計	月平均	合計	月平均
利用者数		1,916世帯	159.7世帯	1,843世帯	153.6世帯
利用回数		5,370回	447.5回	5,421回	451.8回
高齢者	総数	5,651.5時間	471.0時間	5,919.0時間	493.3時間
	単身	2,519.0時間	209.9時間	2,579.0時間	214.9時間
	夫婦	1,551.0時間	129.3時間	1,566.5時間	130.5時間
	同居	1,581.5時間	131.8時間	1,773.5時間	147.8時間
障害者		644.5時間	53.7時間	553.0時間	46.1時間
病弱者		261.0時間	21.8時間	336.0時間	28.0時間
ひとり親家庭等		0時間	0時間	0時間	0時間
利用時間 計		6,557.0時間	546.4時間	6,808.0時間	567.3時間

(エ) 食事サービス

食事サービスでは、毎月おおよそ90人の協力会員が定期的に活動し、利用会員に手作りの食事を届けています。令和8年3月末までに、デイサービス等も含め39,591食を提供しました。月平均の提供数も、令和6年度と比較して増加しています。これは、会員配食及び国領通所・ぷちぽあんの両方で、月平均の提供数が増加したことが主な要因です。事業を支える協力会員については、とりわけ調理部門と配達部門の調整活動での高齢化や人手不足が深刻でしたが、定年後も活動できるよう見直しを行いました。

また、定期的な会員登録説明会の開催や、SNSでの発信、近隣大学・郵便局等へのチラシの設置などの広報にも尽力し、延べ30の方が食事サービスの新人研修を受けました。

食事サービス利用状況

区分		令和7年度		令和6年度	
		延べ合計	月平均	延べ合計	月平均
会員利用者数		2,150人	179.2人	2,167人	180.6人
利用総食数		39,591食	3,299.2食	38,332食	3,194.3食
	会員配食	34,581食	2,881.7食	33,884食	2,823.7食
	国領通所	2,328食	194食	1,948食	162.3食
	ぷちぼあん	2,480食	206.6食	2,282食	190.2食
	その他	202食	16.8食	218食	18.2食

食事サービス週当たり利用日数／各年度3月利用者（単位：世帯）

区分		週1	週2	週3	週4	週5	週6	週7	合計
昼食	令和7年度	12	8	3	3	5	3	2	36
	令和6年度	8	13	3	5	3	3	2	37
夕食	令和7年度	13	25	10	5	9	7	18	87
	令和6年度	11	25	10	8	6	10	17	87
昼夕食	令和7年度	1	3	4	3	0	1	8	20
	令和6年度	1	2	6	1	1	1	8	20
合計	令和7年度	26	36	17	11	14	11	28	143
	令和6年度	20	40	19	14	10	14	27	144

食事サービス月当たり利用者区分／各年度3月利用者（会員）

区分		令和7年度		令和6年度	
		世帯数	人数	世帯数	人数
高齢者	単身	67世帯	67人	71世帯	71人
	夫婦	35世帯	58人	31世帯	49人
	同居	32世帯	42人	35世帯	49人
障害者		4世帯	4人	2世帯	1人
病弱者		4世帯	4人	4世帯	5人
ひとり親家庭等		1世帯	3人	1世帯	5人
合計		143世帯	178人	144世帯	180人

※各区分の人数は世帯員等のうち3月食事サービス利用者

(オ) 福祉施設へのサービス提供（食事サービス）

デイサービスぷちぽあん、調布市国領高齢者在宅サービスセンター及び子ども家庭支援センターすこやかの利用者に、食事を提供しています。

(カ) 会員交流事業

令和7年度の会員交流事業として、10月5日（日）に公社会員（利用・協力・賛助）を対象とした演奏会を開催しました。

当日は、MECP（Music Explorer Concert Project）の高見氏と大曲氏を迎え、ピアノとバイオリンによる演奏が行われました。参加者は27人にのぼり、音楽を通じて会員同士の交流を深める有意義な機会となりました。

(キ) 会員慶弔

利用会員の誕生日に会員宅を訪問し、ミニブーケを届けました。逝去に際しては、弔電を送りました。

イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	登録ボランティア数	130人	172人
—	相談件数	150件	164件
—	利用件数	140件	114件
評価等	○登録ボランティア数は増加傾向です。ちょこっとさんの理念に賛同され、協力会員と同時に登録する方増えています。 ○相談件数・利用件数は昨年と比べて増加傾向です。近隣の自治会の協力を得て、掲示板・回覧板を活用し住民参加型事業の広報に努めました。 ○ちょっとしたお困りごとに対して支援している市内の他団体と連携を図り、ニーズに対しより細やかに対応したサービスの充実・拡大を図りました。 ○生活支援コーディネート事業の周知・広報のために、各地区民生児童委員協議会に参加しました。 ○調布市LED・リユース家電・断熱フィルム導入補助事業の利活用推進のためのパンフレットに、ちょこっとさんのサービス情報を提供しました。		

ソーシャルワーカーが、ひとり暮らし等で生活のちょっとした困りごと（蛍光灯・電球等の交換、荷物の上げ下ろし、ボタン電池等の交換など）を抱えた高齢者からの相談を受け、登録ボランティアにつなげ、問題を解決します。

ソーシャルワーカーが窓口になることで、「ちょっとした困りごと」の解消だけでなく、高齢世帯の孤立防止やソフトな見守り等の支援にもつながると考えています。

相談を受け、「ちょこっとさん」での解決が難しいと判断した場合でも、他の制度・方法に関する情報を提供しました。

本事業を、住民参加型の手法で実施することで、地域社会のつながり活性化の一助にしたいと考えています。引き続き、事業拡大に努めます。

事業名	実施内容	利用件数、参加者数等
生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」	30分程度でできる「ちょっとした」お手伝いをソーシャルワーカーが登録ボランティアをコーディネートして困りごとを解決	相談件数：164件（うち新規77件） 利用件数：114件（うち新規46件） 他機関へ繋げた件数：24件 登録ボランティア：172人 ※登録ボランティア説明会は、協力会員説明会と合同開催

#### ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
—	受付窓口（電話、来所、訪問、SNS等）対応の充実	SNSやオンラインによる相談の充実	・オンラインコードの活用 ・フォームの設置、活用
評価等	○相談面接技術向上のため、より適切な相談対応ができるように社内研修の実施や外部研修の受講を積極的に行いました。		

公社では、高齢者を中心に、障害者・病弱者及びひとり親家庭等の方々の総合相談の窓口として、様々な相談を受けています。

受け付けた相談については、ソーシャルワーカーが、様々な手法で問題解決に向けた支援を行っています。相談の内容は、在宅福祉サービスに関するものが中心ですが、最近では徐々に、その範囲も広がっています。令和5年度から始まったケアラー相談支援についても、定期的に相談が入るようになっており、若年性認知症の当事者を支える家族からの相談も見られるようになりました。

また、医師並びに弁護士による相談事業については、個人に限らず市内事業所の専門職等にも門戸を広げています。内科相談に関しては新しいチラシを作り、幅広く周知しました。

事業名		令和7年度	令和6年度	備考
在宅福祉サ	電話	5,782件	5,306件	ソーシャルワーカー

ービスに関する生活相談	来所	149 件	141 件	による相談
	訪問	1,395 件	1,289 件	
	その他※	1,451 件	1,163 件	
	計	8,777 件	7,899 件	
ケアラー相談支援		35 件	21 件	ソーシャルワーカーによる相談
医師による健康相談	内科	7 件	7 件	医師による相談
	精神科	10 件	12 件	
弁護士による法律相談		11 件	9 件	弁護士による相談
福祉用具などの相談、貸出、紹介		163 件	205 件	貸出件数
総合計		9,003 件	8,153 件	

※電話・来所・訪問の分類に入らない手段（事業利用時・メール等）での相談

(2) 支え合い、孤立しない地域づくりのための普及啓発事業・人材育成事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
—	福祉講演会の参加者率	会場定員 70%以上	82%
—	協力会員・登録ボランティア説明会 延べ参加者数	60 人	125 人
—	出張説明会	10 回	13 回
—	協力会員研修延べ参加人数	200 人	294 人
—	ゆうあい福祉セミナーの参加人数	40 人	25 人
評価等	<p>○地域の集いの場等に出向き協力会員募集の説明会を開催しました。</p> <p>○オンラインや土日に協力会員募集説明会を開催し、幅広い世代の協力会員の募集に向けた普及活動を行いました。</p> <p>○チラシ・ポスターの掲示・設置に協力可能な商業施設等の場所のリスト化を継続するとともに、7月の協力会員募集に関しては業者に印刷、配布を委託し広報活動を行いました。</p> <p>○西部地区では、4つの自治会に協力を仰ぎ、回覧板に広報チラシを回しました。(再掲)</p>		

ア 普及啓発事業

市民相互の支え合いによるあたたかい地域づくりを目指し、住民参加型事業や各種介護保険事業で得られる情報を活用して普及啓発事業を実施しました。協力会員

やボランティアの育成、実習生の受入れ、講座・研修会等の開催を通じて、地域福祉の担い手となる人材育成に努めました。また、住民参加型サービスの活用促進に向け、広報紙ゆうあいに孤独・孤立防止をテーマとした特集記事を掲載し、全戸配布を行いました。さらに、ひだまりサロンや自治会、民生委員児童委員協議会等への出向や、大学・看護学校への広報活動を行い、若年層の協力会員の増加につながりました。加えて、土曜日開催の説明会の実施により、多様な世代の協力会員の登録が見られました。

事業名		実施回数	参加者数	備考
福祉講演会	福祉・医療・保健等に関する情報提供と普及啓発	1回	106人	令和7年10月25日(土)に開催。講演会テーマ『孤独』『孤立』の解消を目指した地域づくり～つながるために必要なこと～ 黒岩亮子氏 (日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授)
広報	機関紙「ゆうあいほっとらいん」	6回	—	2,000部/回
	広報紙「ゆうあい」	2回	—	13万部/回(9月、2月) (内12万8,000部を市内全域にポスティング、2,000部を関係機関に配架)
	ホームページ	随時更新	—	イベント情報を随時更新中
	SNS	随時更新	—	フェイスブック、協力会員向け公式LINEによる情報提供
住民参加サービス出張説明会		13回	272人	民生委員地区協議会や地域のイベントなどで事業説明
協力会員・登録ボランティア説明会		57回	延べ125人	「ちょこっとさん」登録ボランティア説明会と共催
調布市食事サービス連絡会	市内配食事業者との連絡会において、情報・課題の共有、課題解決への検討	1回	5事業所 8人参加	令和8年3月17日(火)開催

## イ 人材育成事業

市民を対象としたゆうあい福祉セミナーでは、「孤独・孤立防止」をテーマに取り上げ、地域における孤独・孤立の課題を知る機会を設けました。公社の理念である「市民相互の助け合い」と「自立支援のための質の高いサービスの提供を通じたあたたかい地域づくり」を推進するために、地域のボランティアから大学で福祉について学ぶ学生や、現に福祉の現場で働く専門職まで、幅広く福祉人材の育成を支援しました。

公社の特性は、介護保険事業をはじめとしたフォーマルサービスと、住民参加型事業に代表されるインフォーマルサービスを併せ持つ点にあります。こうした特性を生かし、学生・社会人・市民・専門職など多様な層を対象とした福祉人材の育成に取り組むため、今後も地域での勉強会や講習会、講師派遣等の取組を推進していきます。

事業名及び内容		実施日又は回数	参加者数	
ゆうあい福祉セミナー	つながりサポーター養成講座（孤独・孤立に関する課題の普及啓発）	令和8年3月15日（日）開催	25人	
実習生の受入れ	大学、専門学校等から社会福祉援助技術や教員免許取得等の実習	57日	11人	
福祉専門職講師派遣	地域の福祉人材育成を支援するため公社職員を派遣	61時間	延べ19人	
協力会員定例会 協力会員の交流を深めるとともに地域づくりの一員としての役割を学ぶ	協力会員ランチ交流会	令和7年5月28日（水） 14人	43人	
	貢献しようフレイル予防	令和7年9月24日（水） 9人		
	特殊詐欺と身近な防犯対策	令和7年12月2日（火） 20人		
基礎研修	協力会員登録時に活動のための基礎を学ぶ	45回	延べ105人	
食事サービス	新人研修	調理実地研修	随時	11人
		調理新人フォローアップ研修	1回	4人
		配達実地研修	随時	19人

		配達新人フォローアップ研修	2回	9人
	スキルアップ研修	食品衛生講習会	1回	29人(補講含む)
		調理実習	1回	22人
		安全運転講習	1回	35人
ホームヘルプサービス	スキルアップ研修	車いすの介助方法の講習	2回	17人
登録ボランティア研修	初めて学ぶ傾聴講座		令和8年2月18日(水)	47人
協力会員外部研修派遣	他の先駆事例、取組等を知るため外部研修参加		1回	2人
介護予防社会参加事業	高齢者でも参加できる社会参加の機会提供、介護予防・地域づくりに向けた支援	グリーンクラブ	月2回	延べ36人
		おなかまクラブ	月1回	延べ56人
		菊1丁目ランチの会	月1回	延べ36人
		スマホ使い方相談会	11回	延べ35人

(3) 認知症施策の推進－誰もが安心して暮らせる地域づくり－

ア 認知症サポーター事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
－	認知症サポーター数	1,000人以上	1,340人
－	認知症サポーターステップアップ講座	2回	4回

評価等	<p>○新規に認知症サポーター養成講座を開催した小学校2校をはじめとして、市内の認知症地域支援推進員と連携しながら、小中学校や企業等で講座を開催し、目標値に達することができました。</p> <p>○認知症サポーターステップアップ講座は、予定していた2回の開催に加えて、市内で新たにチームオレンジとしての活動を希望する2団体へ個別に開催し、目標値を上回りました。</p>
-----	--

認知症サポーターの人数については、認知症になっても、安心して暮らし続けられるまちを目指し、地域の自治会や企業・学校など幅広い世代に働きかけを行いました。複数の「調布市版チームオレンジ」を立ち上げるために、認知症サポーターステップアップ講座を開催するとともに、活動団体の支援を行いました。令和7年度は2か所が新たにチームオレンジとして活動開始しました。認知症サポーター向けの施設見学会については、市内の介護事業所に協力を得て実施しました。

事業名及び内容		回数	参加者数
認知症サポーター養成講座	地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施、キャラバン・メイトの調整・派遣	48回	1,340人
認知症サポーターステップアップ講座	認知症当事者、ケアラーの理解を深めるための講義・体験	4回	96人
認知症サポーターの活躍の場リスト	認知症サポーターの活躍の場の情報を更新し、認知症サポーター養成講座受講者に配布	1回	—
認知症サポーターフォローアップ体験 施設見学会	認知症サポーターになった後の地域での活躍につながる現場体験を知る機会の提供	2回	—人

#### イ だれでもカフェ（認知症カフェ）

月1回定期的を開催し、当事者や家族、地域住民、専門職がフラットな関係性で参加できる環境を整え、社会参加の機会、精神的な負担感・孤立感の解消につながる居場所を提供します。

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
—	だれでもカフェ	200人	217人

評価等	<p>○だれでもカフェを地域のケアラー等へ周知し、必要な情報提供に努めています。月1回定期的に開催し、認知症当事者・ケアラーの精神的な負担感・孤立感の解消に向けて居場所を提供しています。参加人数も目標値を満たす数値で推移しています。</p> <p>○若年性認知症当事者とその家族を対象にしたカフェの開催を試みました。1回目を9月28日(日)に開催し11人が参加、2回目は12月13日(土)に開催し12人が参加、3回目は3月14日(土)に開催し7人参加されました。</p> <p>○東京慈恵会医科大学教授梶井文子氏が行う「コロナ禍後の認知症の人と家族への継続的支援を担う潜在看護職を活用した地域システムの創生」の研究に協力し、潜在看護職の再教育プログラムの一環として施設研修生を受け入れました。</p>
-----	--

(4) ケアラーを支えるための支援の拡充

ア ケアラー、ヤングケアラーのための個別相談支援

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
—	ケアラー相談支援	—	—
—	ヤングケアラー・コーディネーター	—	—
評価等	<p>○ケアラー当事者や関係者のための相談窓口として認知されるため、高齢・障害・医療・児童など関係機関および民生児童委員や地域の活動団体への普及啓発に努めました。</p> <p>○ケアラー相談に特化したチラシを作成、メールやオンラインでの対応も可能とし、ケアラーが直接相談しやすい環境づくりに努めました。</p>		

事業名		実施回数	参加者数	備考
ケアラー相談支援	相談・問い合わせ	随時	35件	ソーシャルワーカーによる相談支援
	訪問・面談	随時	16件	ソーシャルワーカーによる相談支援
ヤングケアラー・コーディネーター	相談ケース数	随時	43件	前年度より引き続き対応28ケース含む
	訪問・面談	随時	106件	自宅訪問など個別対応や多機関連携

イ ケアラー（介護者）が孤立しない地域づくりのための普及啓発・人材育成

家族介護者が安心して過ごせる居場所の提供や、市内における家族介護者の居場所に関する情報提供を行うとともに、介護技術の習得を目的とした講習会を開催するなど、家族介護者への支援に幅広く取り組みました。

介護する家族が、一息つける居場所を提供するための「だれでもカフェ」は、計画通

り毎月1回開催しています。参加者数も、目標を上回るような実績となっています。家族介護者向けの介護技術講座は、第1回目は、今年度も民間の専門事業者を招いての講習会を開催し、14人が受講しました。

また、第2回目はぷちカフェと同時開催し公社の介護福祉士による講座を開催して5人が参加しました。市内の家族介護者に、ケアラーを支えるグループや最新の居場所等に関する情報を届ける「ケアラー支援マップ」については、情報を更新し、市内全戸に配布しました。

また、ケアラーを支えるグループのために、11月10日ケアラー支援団体の情報交換会、「地域でつながり、つなげるケアラー支援」を開催しました。

講師は東京都健康長寿医療センター研究員の涌井智子氏に依頼し27人の参加者があり、団体同士で活発な意見交換がありました。ケアラーサポーター養成講座は、2月7日に開催、18人の参加がありました。「ヤングケアラー・コーディネーター事業」については、3年目となり、普及啓発にも力を入れたことで関係機関からの問い合わせが増えるなど徐々に認知度が向上しています。ケースについては所管の子ども家庭センター親子相談係と連携をしながら事業を進めています。

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	ケアラーサポーター数	15人	18人
—	だれでもカフェ	200人	217人
—	ケアラー向け介護技術講座	10人（出張介護技術講座含む）	89人
評価等	<p>○ケアラーサポーター養成講座を2月7日（土）に開催、18人の参加がありました。</p> <p>○だれでもカフェを地域のケアラー等へ周知し、必要な情報提供に努めています。月1回定期的に開催し、認知症当事者・ケアラーの精神的な負担感・孤立感の解消に向けて居場所を提供しています。参加人数も目標値を満たす数値で推移しています。（再掲）</p> <p>○若年性認知症当事者とその家族を対象にしたカフェの開催を試みました。1回目を9月28日（日）に開催し11人が参加、2回目は12月13日（土）に開催し12人が参加、3回目は3月14日（土）に開催し7人参加されました。（再掲）</p> <p>○ケアラーのニーズを把握し、ケアラー向けの介護技術講座を3回開催しました。</p>		

事業名	実施回数	参加者数	備考
-----	------	------	----

だれでもカフェ（ケアラーの居場所・ピアサポート支援）	月 1 回 (計 13 回)	参加者 延べ 217 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれでもカフェこくりょう（毎月第 4 日曜日）※ボランティアによる演奏会や外部研修の PR を実施</li> <li>・だれでもカフェふちぼあん 9 月 7 日（日）実施</li> </ul>
ケアラー支援マップ	1 回	発行 13 万部 (内 12 万 8,000 部を市内全域にポスティング、2,000 部を関係機関に配架等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 8 年 2 月 5 日（木）広報紙ゆうあい 31 号にて第 14 版を掲載。ケアラーを支えるグループ、相談窓口、市内の居場所等の情報を掲載</li> </ul>
ケアラー向け介護技術講座	3 回	89 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護がタニンゴトからジブンゴトになるポイント」開催 令和 7 年 7 月 4 日（金） 参加者 14 人</li> <li>・「体感して学ぶ介護のコツ」令和 7 年 9 月 7 日（日） 参加者 5 人</li> <li>・飛田給地区協議会防災訓練 令和 8 年 3 月 1 日（日） 参加者 70 人</li> </ul>
ケアラーを支えるグループの学習会	2 回	74 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアラー支援団体情報交換会開催「地域でつながり、つなげるケアラー支援」 令和 7 年 11 月 10 日（月） 参加者 27 人</li> <li>・初めて学ぶ傾聴講座（再掲） 令和 8 年 2 月 18 日（水） 参加者 47 人</li> </ul>
ケアラーサポーター養成講座	1 回	18 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 8 年 2 月 7 日（土）開催 参加者 18 人</li> </ul>
ケアラーサポートブック	随時	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 8 年 3 月に第 3 版を発行。 引き続き、包括支援センター等必要な場所で配布できるように普及啓発する。</li> </ul>

ヤングケアラー・コーディネーター	普及啓発	随時	延べ1,968人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢、障害、医療、児童、など関係機関、子ども食堂や地区協議会など地域の関係者への広報活動</li> <li>・市民向けヤングケアラー講座「ヤングケアラーを知ろう～見えにくいケアのかたち、当事者が感じていること～」令和7年11月2日（日）開催 参加者45人</li> </ul>
------------------	------	----	----------	--

(5) 高齢者の介護・医療・福祉をサポートする総合相談と支援体制づくり

ア 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	介護予防関連事業参加者数 (出前講座、介護教室)	150人	340人
◎	地域ケア会議参加者延べ人数	90人	131人
◎	みまもっとPR活動件数	250件	272件
評価等	<p>○地域包括支援センター職員と地域で活動する専門職が連携し、出前講座や介護教室の機会を活用して、介護予防や生活上の困りごとの解決に向けた働きかけを行いました。</p> <p>○地域ケア会議では、1回目は地域からの課題提起に基づき地域課題の共有化と解決に向けた意見交換を実施。2、3回目は事例を活用して参加者から課題への解決案及び多様な意見を聴取できる機会となりました。</p> <p>○地域へ普及啓発する機会は、介護予防関連事業及び地域ケア会議とともに「みまもっと便り」(広報紙)によるPR、高齢者の生活に関係する多様な窓口との関係づくりを行うことができました。</p>		

(ア) 総合相談事業

区分	令和7年度	令和6年度
相談件数	11,401件	10,733件
実態把握人数	1,030件	896件

## (イ) 介護予防

区分		実施日・回数等	参加者数
介護教室	「知っておきたい紙おむつの選び方・使い方」	令和7年7月17日 (木)	31人
	「紙おむつの使い方の実際を学ぼう」	令和7年7月31日 (木)	19人

## (ウ) 介護予防マネジメント

区分	令和7年度	令和6年度
介護予防ケアプラン作成件数	3,052件	2,727件
介護予防ケアプラン委託件数	1,077件	997件

## (エ) 権利擁護

区分	令和7年度	令和6年度
虐待予防相談	58件	99件
成年後見制度の活用推進、消費者被害の防止等の相談	188件	118件

## (オ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

区分	内容		
ケアマネジャー支援	適正なケアマネジメントのための支援：157件		
ケアマネット・事例検討会	「第2回アセスメントを学ぼう～アローチャートを使って～」	令和7年6月20日(金)	25人
	「複合的課題を紐解く～支援困難事例の分析～」	令和7年10月23日(木)	24人
	事例検討会（勉強会）	令和7年4月24日(木)参加者8人 令和7年5月22日(木)参加者7人 令和7年7月24日(木)参加者6人 令和7年8月28日(木)参加者5人 令和7年12月25日(木)参加者5人 令和8年2月26日(木)参加者8人 令和8年3月26日(木)参加者12人	計51人
地域ケア会議	「高齢者の生活と移動手段～ケアの	令和7年5月2日(金)	51人

	観点から～」		
	「介護者を支えるとは～直接的支援から地域での支援～」	令和7年11月6日(木)	37人
	「事例とともに考える“生活困窮者の支援”について」	令和8年1月23日(金)	43人
地域ケア会議（関係者会議）	担当者が集まって個別事例の課題把握や処遇検討を行う：2件		

(カ) 認知症対策

区分	内容
認知症相談	認知症にまつわる相談：280件
認知症理解促進の講座	調布ヶ丘児童館 第二小学校 国領小学校（認知症サポーター養成講座）

(キ) 見守りネットワーク事業

区分	令和7年度	令和6年度
通報件数	147件	117件
PR件数	272件	269件

(ク) 地域ネットワーク構築

地域のネットワークを構築するために、Aゾーン会議（ネットワーク構築会議）を開催しました。

区分	実施日・回数等	参加者数他
広報協力員研修、連絡調整会	連絡会・研修会 ・連絡会 令和7年6月4日(水) ・研修会 令和7年9月19日(金) 「歩行測定～自分の歩き方を知ろう～」	連絡会6人 研修会8人

	PR訪問 市の世帯状況調査で情報提供を求めた方に情報提供を実施	新規対象者はなし 継続的に関わりある方へ 電話・資料投函	7世帯 12人
	民生児童委員と広報協力員連絡会	令和7年6月4日(水)	28人
地域ネットワークづくりのための会議	地域支援推進員等との連絡会	6回開催	
	Aゾーン会議（地域課題解決会議）	① ネットワーク構築会議 令和7年8月27日(水) ② 随時会議 ※個別事例の地域ケア会議としてもカウント	①34人 ②未開催

(ケ) 出前講座

区分	実施日・回数等	参加者数
高齢者の多様な社会資源にみまられる～さりげなく見守り、見守られる地域づくり～	ライフタウン国領集会所 令和7年4月24日(木)	9人
医療システムのあれこれ	マンション国領コミュニティルーム 令和7年4月19日(土)	9人
初夏の集い「免疫力UPでフレイル予防～元気に笑いましょう♪～」	都営八雲台自治会館 令和7年5月30日(金)	17人
知っておこう！訪問診療	マンション国領コミュニティルーム 令和7年6月21日(土)	13人
じぶんノートの書き方	圓福寺 令和7年7月15日(火)	7人
高齢者の世界を知る	第二小学校 令和7年7月16日(水)	23人
この夏をどう乗り切るか～熱中症～	マンション国領コミュニティルーム 令和7年7月19日(土)	11人
高齢者の世界を知る	調布ヶ丘児童館 令和7年8月20日(水)	44人
介護保険制度について	くすのき1号棟集会場 令和7年9月2日(火)	8人
高齢者の世界を知る	第二小学校 令和7年9月10日(水)	25人
「終活について考える」～じぶんノートの書き方～	マンション国領コミュニティルーム 令和7年9月20日(土)	7人

おむつの選び方	くすのき1号棟集会場 令和7年10月16日(木)	8人
「暮らしの“ちょっと困った”に、そっと手を～地域の支えが、あなたのそばに～」	マンション国領コミュニティルーム 令和7年10月18日(土)	9人
秋の集い「防災クイズ」	ゆうあいサブセンター 令和7年10月24日(金)	26人
消費者被害について	ろじうら 令和7年11月7日(金)	10人
おむつの選び方	市民活動支援センターあくろす 令和7年11月7日(金)	7人
「終活について考えてみよう」～“もしバナカード”を体験しよう♪～	マンション国領コミュニティルーム 令和7年11月15日(土)	7人
歩行測定と福祉用具について	八雲台ふれあいの家 令和7年12月2日(火)	29人
「10筋のトレーニング」～お正月にのんびりした後は、10筋トレーニングで体を動かしましょう～	マンション国領コミュニティルーム 令和8年1月17日(土)	6人
「成人偏平足と歩行への影響」	マンション国領コミュニティルーム 令和8年2月21日(土)	9人
「感染症について」	マンション国領コミュニティルーム 令和8年3月21日(土)	6人
10の筋力トレーニング体験会	未実施	—
10の筋力トレーニング立ち上げ支援	都営調布ヶ丘2丁目自治会館 ① 令和7年6月15日(日)11人 ② 令和7年6月21日(土)8人 ③ 令和7年7月5日(土)5人 ④ 令和7年7月9日(水)5人	29人
10の筋力トレーニング継続支援	○トヨタ10筋の会 12回 68人 ○サロンドわきあいあい 1回 9人 ○くすのき木曜会 1回 9人 ○10筋あくろす 3回 18人 ○あおい 1回 5人 ○MTTC 1回 10人	119人

## (コ) 一般施策判定業務

区分	令和7年度	令和6年度
判定数	267件	243件

## (サ) 介護保険要介護認定調査

区分	令和7年度	令和6年度
認定調査件数	2件	13件

## (6) 認知症ケアの充実とフレイル予防

## ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	総合事業通所型サービスの稼働率	60.0%	54.5%
◎	バスストップ型の拡充(市基準)	3か所	2か所
◎	認知症デイ(国領)の稼働率	69.0%	62.6%
—	ボランティア数(延べ人数)	300人	403人
評価等	<p>○プログラムの更新を行い、体操のレパートリーを増やしています。廃止者数が新規者数を上回り、稼働率が伸び悩みました。</p> <p>○多摩川住宅方面、国領駅2カ所のバスストップに留まっています。</p> <p>○年度末に新規利用者が繋がり、70%を超えていますが、年度前半の分を補うことは難しい状況でした。</p> <p>○市民活動センターと連携し、たくさんのボランティアの方々に参加頂くことが出来ました。</p>		

介護保険制度に基づいて、利用される方の希望やニーズに沿ったサービスが提供できるように努めました。介護職員処遇改善加算Ⅰを算定するにあたり、職員の専門性の維持向上が図れるよう、個別研修計画を作成し、年間を通して法定研修、指定研修、自主研修を受け、サービスの維持向上に努めました。

総合事業通所型サービス(市基準)については、既存のプログラムに加えて、意欲的に運動型プログラムに取り組めるよう内容も一部更新しながら実施しました。

認知症対応型通所介護(デイサービス)については、利用者の皆さまが安心して快適に過ごせるようにサービスの質の維持、向上に努めました。

稼働率としては目標達成に及びませんでした。地域に必要とされる事業を目指します。

区分		令和7年度	令和6年度
総合事業通所型サービス(市基準)	延べ人数	2,093人	1,670人
	1日平均	8.1人	8.3人
認知症対応型通所介護	延べ人数	2,306人	1,923人

	1日平均	7.5人	6.3人
--	------	------	------

(ア) 運営推進会議

情報の公開、及び地域との連携・交流の場を確保するとともに、サービスの質の維持・向上を図るため、利用者の家族や地域住民の代表者、またサービスに知見を有する方に委員として参加していただき、対面式で2回開催しました。

開催日
第1回：令和7年7月22日(火)
第2回：令和8年3月10日(火)

(イ) 家族会

介護者同士が安心して気持ちを吐露する場の提供ができればと企画しました。介護に関する共通の課題や悩みを共有できました。

開催日	参加者数
第1回：令和7年10月18日(土)	4人
第2回：令和8年2月21日(土)	2人

(ウ) 地域福祉交流育成

中学生職場体験と教育職員免許法における介護等体験事業の受入れを継続し、人材育成の一助の役割を担うことができました。

区分		令和7年度	令和6年度
ボランティア受入れ	個人	延べ347人	延べ258人
	団体(人数)	15団体(56人)	7団体(39人)
ボランティア交流会	実施回数	1回	1回
	参加者数	3人	延べ6人
職場体験・介護等体験受入れ※	受入者数	7人	9人
	期間	11日間	10日間

※調布市社会福祉協議会のサマーボランティア含む

イ 調布市入間町地域密着型認知症デイサービスぷちぼあん事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	認知症デイ(入間町)の稼働率	68.0%	67.1%
—	地域開放支援事業	12回	8回
評価等	<p>○これまで長く利用されてきた方々が同時期に退所となり、稼働率の大きな減少となりました。</p> <p>○自治会への開放、ぷちぼあんカフェ(年1回)の開催を行いました。</p>		

認知症になっても、地域での生活を継続することを希望される方や、ご家族の希望やニーズに沿ってサービスを提供できるように介護支援専門員とも連携してサービス提供を実施しました。国領高齢者在宅サービスセンターと人員の協力体制を取りました。また、外部の民間団体からの派遣についても検討を行いました。

区分		令和7年度	令和6年度
認知症対応型通所介護	延べ人数	2,473人	2,275人
	1日平均	8.6人	7.5人

(ア) 運営推進会議

サービスの質の確保と向上を図り、地域との連携と交流を確保するために、利用者の家族や地域の代表者、またサービスに関し知見を有する方を委員に選任し、会議を開催しました。

開催日
① 令和7年6月10日(火)、②令和8年1月26日(月)

(イ) 家族会

開催日	参加者数
① 令和7年5月16日(金)、②令和7年12月16日(火)	① 6人、②6人

(ウ) 地域開放支援事業

区分		令和7年度	令和6年度
ボランティア受入れ	活動者数	延べ201人	延べ292人
地域交流会支援(A)	実施回数	1回	1回
	参加者数	6人	20人
施設貸出(B)	貸出回数	7回	6回
	参加者数	61人	33人
施設開放(A)+(B)	貸出回数	8回	7回
	参加者数	67人	53人

(7) 多様なニーズに対する専門性の確保と利用者寄り添ったケアの推進

ア 訪問介護事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	職務限定職員の人数	3人	3人
◎	介護職カフェ(介護技術勉強会) 開催回数	4回	4回

◎	利用件数 ※訪問介護・軽度生活援助・子育て世帯支援事業訪問支援員派遣事業等の合計	12,600 件	13,128 件
評価等	<p>○職務限定職員の人数 職務限定職員を雇用できる体制を整備したことで、今年度早々に嘱託職員から職務限定職員へ任用替えを行うことができました。</p> <p>○介護職カフェ 第1回令和7年6月23日 3事業所 17人参加 第2回令和7年8月15日 2事業所 11人参加 第3回令和7年12月11日 3事業所 17人参加 第4回令和8年2月24日 2事業所 17人参加 暑さ対策や緊急時対応等、実践に備えた技術研修を実施しました。</p> <p>○利用件数 利用件数は前年度 12,567 件から今年度 13,128 件へと増加しました。しかし、ヘルパーの慢性的な不足や登録ヘルパーの高齢化が進む中で、限られた人員で対応している状況であり、運営面の厳しさは増えています。また、地域の訪問介護事業所の閉鎖が見られ、地域の受け皿が減少していることから、相談・依頼は増加傾向にあります。今後さらに需要の高まりが見込まれる中、安定的なサービス提供体制を維持するためには、継続的な人材確保が重要な課題となっています。</p>		

(ア) 訪問介護事業

公社理念に沿ってヘルパーの行動指針を策定しました。利用者が本人の有する能力を活かし、自立した日常生活が営めるように、本人主体のサービス提供に努めています。資質の向上や人材育成に向け、幅広く福祉の知見を得る機会として定例の研修会を年に16回計画しています。

職員の確保が難しい中、1人の嘱託職員を限定職員に、1人の登録型ヘルパーを嘱託職員に任用替えを行いました。

喫緊の課題であるヘルパー不足について、ホームページに求人特設ページを新たに設けました。また、求人ポスターやチラシを作成し、募集を行っています。

(イ) 総合事業訪問型サービス

需要は年々増えており、積極的に依頼を受け、ヘルパーを派遣しています。利用者の有する能力に応じ、自立に向けた支援を実施しています。

区分	利用者数（上：延べ人数、下：％）							訪問時間数 訪問回数	
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計	
	1	2	1	2	3	4	5		
令和7年度	126	281	273	383	143	89	73	1,368	10,171.3時間
	9.2	20.5	20.0	28.0	10.5	6.5	5.3	100.0	13,045回

令和6年度	163	173	273	406	165	93	71	1,344	10,311.8時間
	12.1	12.9	20.3	30.2	12.3	6.9	5.3	100.0	12,502回

(ウ) 軽度生活援助事業（見守り）

認知症の高齢者等に対し、自立した生活を維持・継続するため、介護保険制度では担う事が出来ない見守り等の支援を行っています。併せて、家族の負担軽減などを目的としたサービスを提供しています。

区分		利用者 延べ数	サービス提供 延べ回数	サービス提供 延べ時間数
軽度生活援助（見守り）	令和7年度	11人	75回	75時間
	令和6年度	0人	0回	0時間

(エ) 子育て世帯支援事業訪問支援員派遣事業

対象家庭を訪問し、各家庭の状況に合わせた支援を包括的に行います。  
ヤングケアラーに代わり家事支援を行い、生活負担の軽減に助力しています。

区分		利用者 延べ数	サービス提供 延べ回数	サービス提供 延べ時間数
子育て世帯支援事業訪問 支援員派遣事業	令和7年度	8人	8回	8時間
	令和6年度	18人	65回	126時間

(オ) 介護職カフェ（介護技術勉強会）

介護職員同士の情報交換や、交流の場として介護職カフェ（介護技術勉強会）を開催しました。

区分	実施日	参加者数
介護職カフェ（介護技術勉強会）	令和7年6月23日(月) 令和7年8月15日(金) 令和7年12月11日(木) 令和8年2月24日(火)	延べ62人 延べ10事業所

(8) 地域、医療介護の連携を通じた生活支援、ケアマネジメントの充実

ア 居宅介護支援事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	ケアプラン作成数	1,480件	1,867件
評価等	○ケアプラン作成数 目標値を達成することができました。複数の新人職員の入職もあり、人材育成に注力するとともに、今後も業務効率化を図りながら、安定してプラン作成が出来るよう体制を整えていきます。		

(ア) 居宅介護支援、介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

法令順守に基づいたケアプランの作成に努めました。また、利用者が住み慣れた地域で「望む暮らし」を実現することを目指し、多職種と連携を図りながら、公的制度の利用や地域資源を活用したケアマネジメントを行いました。そのほか、職員入退職による引継ぎと並行しながら、AI機器も活用し、業務の効率化を進めました。

(上：延べ利用者数、下：%)

年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
令和7年度	31	146	515	608	283	211	73	1,867
	1.7%	7.8%	27.6%	32.5%	15.2%	11.3%	3.9%	100.0
令和6年度	11	100	467	469	227	205	104	1,583
	0.7%	6.3%	29.5%	29.6%	14.3%	13.0%	6.6%	100.0

(イ) 介護保険要介護認定調査事業

区分	令和7年度	令和6年度
認定調査件数	0件	0件

(9) 健全な公社運営

ア 法人運営及び組織体制の強化・充実

人員体制の確保については、正規職員やヘルパーにおいて近年欠員が続き、厳しい状況のもとでの事業運営となりましたが、多様な求人媒体や手法を活用した採用活動を継続した結果、正規職員及び訪問介護部門の登録型ヘルパーについては、完全な充足には至らないものの、人材確保に向けた一定の進展が見られました。年次有給休暇の取得率については、欠員の影響もあり全体として目標値には至りませんでした。取得しやすい環境の整備など、引き続き検討が必要な状況です。

このほか、事業継続計画（BCP）に関しては、全職員を対象とした研修及び安否確認訓練を実施し、組織としての対応力の向上を図りました。

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	研修受講率	56%	46.4%
◎	年次有給休暇の取得率	76%	63.0%
◎	全職員の所定外労働時間数	5,200時間	5,103時間
評価等	<p>○研修受講率は、目標を下回りましたが、一定の受講機会は確保されていたものと認識しています。</p> <p>○年次有給休暇取得率は、目標には至らなかったものの、6割を超える取得が見られました。</p> <p>○所定外労働時間数は、業務効率化等の取組の効果が一定程度見られました。</p>		

区分	内容
会員・ボランティア基盤の 拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内郵便局、図書館、店舗、野ヶ谷の郷など地域の自治会や地域の居場所（ふふ富士見等）協力会員募集のチラシ配架やポスター掲示を依頼し、実施しました。</li> <li>・民生児童委員会の連絡会や地区協議会などに参加し、住民参加の事業説明や協力会員募集案内を行いました。</li> <li>・調布市公式 LINE にて有償ボランティアの募集案内（登録者約 34,000 人）を掲載しました（随時）</li> <li>・電気通信大学、白百合女子大学に協力会員登録説明会の案内を送付しました。（継続）            ※白百合女子大学は学務課より学生に一斉メールを配信</li> <li>・令和 7 年 9 月 20 日（土）発行の広報誌ゆうあい 30 号にて、住民参加型事業の紹介、協力会員募集案内と賛助会員（振込用紙付き）募集を並行して実施しました。</li> <li>・ゆうあい公式 LINE にて協力会員向けの情報発信活動を行いました。（継続）</li> <li>・ホームページに協力会員募集案内を掲載（継続）</li> <li>・協力会員募集チラシを市内にポスティング（6 月／42,000 部、令和 8 年 2 月／104,000 部）</li> </ul>
P D C A マネジメントサイ クル構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングシートを作成、活用することで、事業の進捗状況を確認しました。</li> </ul>
制度改正などへの対応・検 討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10 月東京都最低賃金改定(1,226 円)の対応を実施しました。</li> <li>・介護職員等処遇改善加算や東京都居住支援特別手当等制度を活用しました。</li> </ul>
労務管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、衛生委員会を実施しました。</li> </ul>
専門資格の取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主研修の活用実績 5 件</li> </ul>
将来を担える職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規職員、限定職員の人事評価面談(期首・期中・期末)を実施しました。</li> <li>・非常勤面談（12 月）を実施しました。</li> <li>・職場環境の改善について、職員からの意見を集約し、毎月の会議で内容を精査しました。</li> </ul>
システム活用による業務効 率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生成 A I 機能付きの記録作成支援ツールを導入しました。</li> </ul>

危機管理（リスクマネジメント）の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年7月11日(金)調布市の災害時における協定関係機関との意見交換会に参加しました。</li> <li>・令和7年9月7日(日)国領地区協議会主催防災訓練に参加しました。</li> <li>・12月と2月にBCP(事業継続計画)全体研修を実施予定。12月は被災直後の優先業務の見直しを実施。</li> <li>・BCP(事業継続計画)訓練として、12月、夕刻、震度6強の地震発生から6時間の間の災害対応について全体研修を実施し、2月には社内メール活用した安否確認訓練を実施しました。</li> </ul>
--------------------	--

#### イ 自主的、自立的経営に向けた財政基盤の強化

自主事業については、居宅介護支援事業及び訪問介護事業ともに安定的に推移しました。居宅介護支援事業では、職員の補充に加え主任ケアマネジャーの確保が進み、安定した運営体制の構築につながりました。訪問介護事業においても、サービス提供責任者の正規職員化（職務限定職員）を進めるなど体制強化を図りました。また、多様な求人手法の活用により、人材確保についても一定の進展が見られました。

こうした取組の結果、自主事業全体の収支は黒字を確保し、安定的な事業運営に寄与しました。このほか、賛助会員数及び寄附額についても目標値を上回り、財政基盤の強化につながりました。

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
◎	賛助会員数	300人	360人(内、団体6)
◎	寄附額	340,000円	617,202円
◎	自主事業の収支（2事業合計）	収支均衡（±0）	307万円余
評価等	<p>○賛助会員数については、6月に継続依頼を送付、9月の広報紙で募集を掲載し拡充に努めました。また、オンラインで寄附決済を完結する仕組みも取り入れたことにより、新たな会員獲得にもつながりました。</p> <p>○自主事業の収支については、居宅介護支援事業で職員の退職、入職がありましたが特定事業所加算の体制を維持しました。訪問介護事業では、執行状況をモニタリングし、適正な件数管理に取り組みました。</p>		

区分	内容
モニタリングシートの活用	モニタリングシートを月次で作成し、経営状況の把握と評価を継続しました。
寄附金収入の拡充	オンライン寄附を活用し、寄附をいただきました。

賛助会員の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に166人の賛助会員に継続を依頼しました。</li> <li>・9月20日広報紙ゆうあいにて、賛助会員募集の郵便振込用紙付きを送付し、26件の会員の獲得につながりました。公社のWeb上で5件の賛助会員の登録をいただきました。</li> </ul>
自主財源の拡充	自主2事業について、特定事業所加算の維持要件を意識した取組を継続しました。

#### ウ 調査研究開発事業

重点項目	項目	目標値 令和7年度	実績
—	調査実施数（内部調査、実証研究調査、新規・改善事業調査）	1回	4回
評価等	○職場環境の改善に向けて取り組むべき課題について、職員から意見を集約し、毎月内容について検討しました。取組の方向性について職員間で共有しました。		

取組	内容
調査研究開発	入職促進に向けた取組、資質の向上やキャリアアップに向けた支援、等合計5項目の課題について、職員の意見を集約し、その内容を精査、再検討し、取組の方向性を決めました。

## 4 その他の報告事項

### (1) 役員等及び会議に関する事項

#### ア 役員等名簿（令和8年3月31日現在）

##### (ア) 理事・監事

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	田口学	理事	荒井敏	理事	三浦詩子
副理事長	橋本郁子	理事	涌田俊幸	監事	高橋進
常務理事	塚本栄	理事	黒部光夫	監事	立崎美香子

##### (イ) 評議員

氏名	氏名	氏名	氏名
八田主税	宇治和子	古屋育子	相田光一
荻本剛一	田中晶子	荻本末子	八角千里



令和8年3月6日 (第4回定時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度上半期事故報告について</li> <li>・令和8年度事業計画(素案)について</li> <li>・令和8年度収支予算(素案)について</li> </ul>	報告 報告 報告 報告
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専決処分の承認について(令和7年度収支補正予算第5号)</li> <li>・令和8年度事業計画(案)について</li> <li>・令和8年度収支予算(案)について</li> <li>・理事長及び常務理事の職務の執行状況について</li> </ul>	承認 可決 可決 報告

※「承認」は専決処分に係る案件

(イ) 評議員会

開催年月日	件名	結果
令和7年5月19日 (定時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度事業報告について</li> <li>・令和6年度収支決算について</li> </ul>	可決 可決
令和7年9月25日 (第1回臨時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長及び常務理事の職務の執行状況について</li> </ul>	報告
令和8年3月19日 (第2回臨時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度事業計画について</li> <li>・令和8年度収支予算について</li> <li>・理事長及び常務理事の職務の執行状況について</li> </ul>	報告 報告 報告

(2) 公社外部委員会等一覧表及び実習生受入実績

ア 公社外部委員会等一覧表

1	「調布市見守りネットワーク事業」関係団体ネットワーク会議Bゾーン
2	調布消防署住宅防火等推進協議会
3	調布市高齢者救急業務連絡協議会
4	調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会
5	認知症対応型通所介護事業所連絡会
6	介護保険サービス事業者調布連絡協議会(役員会・委員)
7	調布市社会福祉協議会(評議員)
8	社会福祉法人くすのき会(評議員)
9	(第11期)調布市地域福祉推進会議
10	調布市福祉人材研修センター会議(運営委員会)
11	調布市食事サービス連絡会
12	調布市相談支援包括化推進会議/本会
13	調布市相談支援包括化推進会議/部会
14	調布市高齢者福祉推進協議会
15	調布市養護老人ホーム入所判定委員会
16	地域密着型サービス運営推進会議
17	地域包括支援センター運営等協議会
18	介護保険認定審査会
19	認知症地域支援推進員及び在宅医療・介護連携推進担当者会議

20	こくりょうみんなの広場（国領小学校地区協議会）運営委員会
21	くすのき商店会

イ 実習生受入実績(介護職員初任者研修・社会福祉士・看護師・他)

区分	学校名	実習名	日程	日数	人数
1 社会福祉実習	法政大学	社会福祉実習	8/4～9/5	24	1
	桜美林大学	社会福祉士実習	1/21～2/27	24	1
2 看護実習	慈恵第三看護専門学校	在宅看護論実習	10/3	1	2
	杏林大学	地域包括ケア実習	9/2、9・10	3	3
	東京慈恵会医科大学	地域連携実習	2/17、18	2	2
3 その他実習	調布市立第六中学校	職場体験	9/9～11	3	2

(3) 職員研修の実績

ア 研修実績

総職員数：97人（令和8年3月31日現在）

研修種類	受講者数	受講率
社内研修	90人	92.8%
指定研修	45人	46.4%
自主研修	5人	5.2%

イ 社内研修

No.	研修日	研修名	主催	会場	研修日数	参加人数	参加日数
1	R7.4.16	福祉サービス職員の職業倫理	あづま福祉士事務所	公社	1	59人	1
2	R7.6.18	事業計画説明会	公社職員	公社	1	48人	1
3	R7.8.20	認知症・認知症ケア研修	株式会社 ProfessionalWorks	公社	1	72人	1
4	R7.10.15	高齢者虐待防止の体制づくり とその取り組み	梅沢 佳裕	公社	1	65人	1
5	R7.12.17	BCP全体研修	公社職員	公社	1	79人	1
6	R8.2.3	BCP安否確認訓練	公社職員	公社	1	94人	1
7	R8.2.18	三大ハラスメント防止研修	梅沢 佳裕	公社	1	75人	1

(4) 事業報告書附属明細書について

該当なし